

6
エリヤ
聖徒伝 123

「救いは 天の神にある」

列王記第二 1～2章

エリヤの携拳

アウトライン

0. イントロダクション

I. アハズヤの死 I 22章51～53節

II 1章

II. エリヤの携拳 II 2章

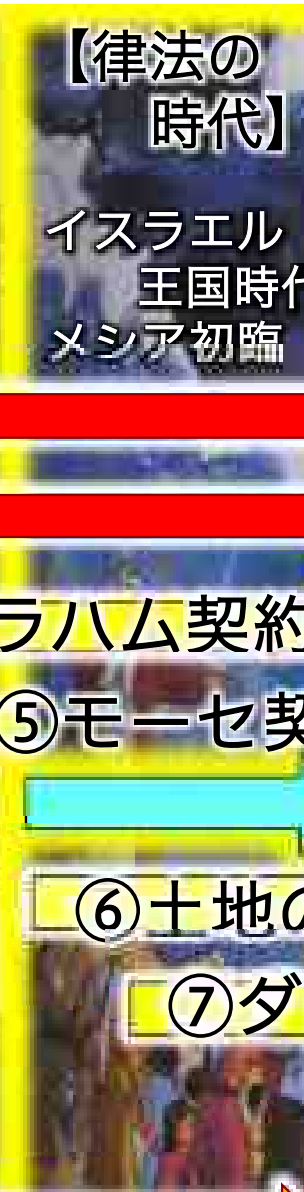
III. まとめと適用

クリスチャンの希望

携拳について学ぼう



死海北端 ヨルダン河口付近



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

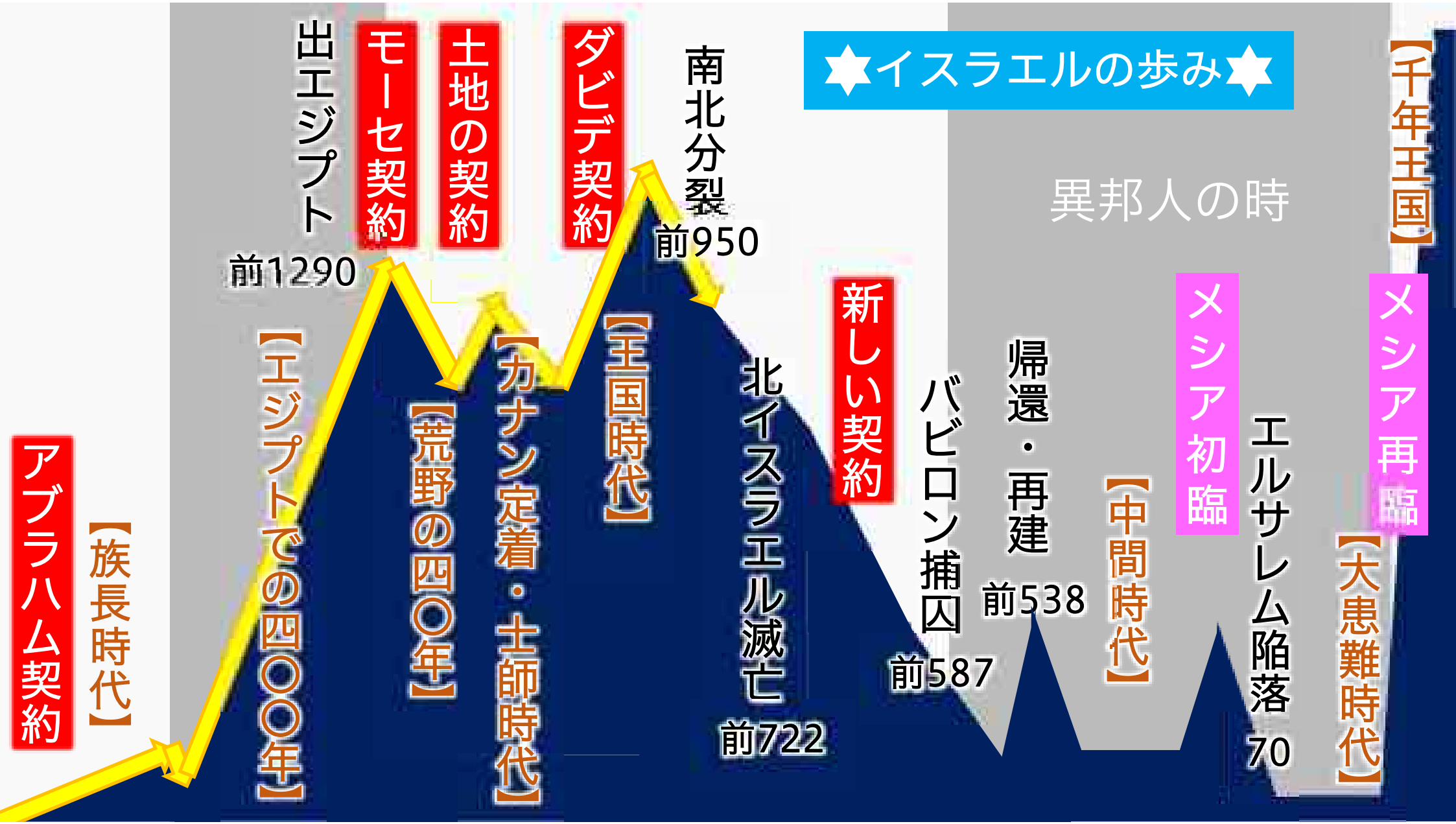
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

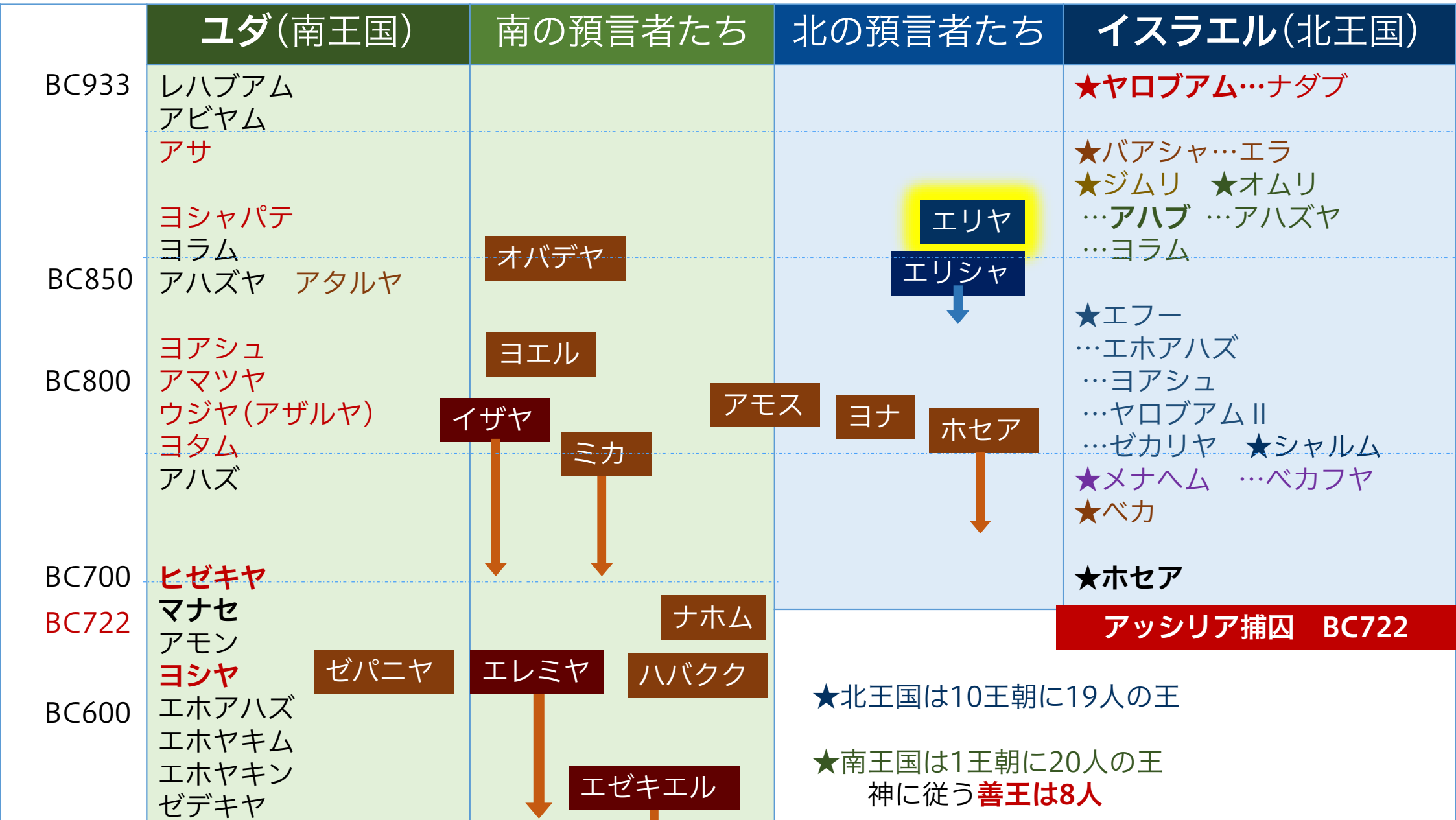
★イスラエルの歩み★



列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ (アハブ王の生涯)	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア	
	2〜13章	預言者エリシャ			
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王



北王国 イスラエル

南王国 ユダ

北王国最悪の時代 🦴

エリヤ エリシャ

【エフー王朝】
エフー 28年

エホアハズ 17年

ヨアシュ

イゼベル 🦴

【オムリ王朝】

オムリ 12年

アハブ 🦴 22年

ヨラム 12年

アハズヤ 2年

アタルヤ 6年

アサ ♡ 41年

ヨシャパテ ♡ 25年

ヨラム 8年

アハズヤ 1年

ヨアシュ ♡ 40年

ウジヤ

オバデヤ

【預言者エリヤ】 1 列王記17~22章

- 最初の王ヤロブアム以来、偶像礼拝の悪の道を歩み続けた北王国。最悪の王**アハブ**の時代に遣わされたのが預言者**エリヤ**だった。
- **エリヤ**は干ばつ裁きを告げ、偶像礼拝者への勝利の後、逃亡。シナイ山で主に引き起こされ、後継者**エリシャ**に油を注いだ。以降は、残れる者たちを集め、預言者集団の育成に注力した。
- 神への反逆と暴虐の極みに至った**アハブ**に、悲惨な死と一族の滅亡を告げたのも**エリヤ**だった。**アハブ**は壮絶な最期を遂げた。



Ⅰ. アハズヤ王の死

列王記第一22章51～53節, 第二1章

乾季のサマリア

【アハブの子アハズヤ】 II 列王記22:51

アハブの子アハズヤは、ユダの王ヨシャファテの第十七年にサマリアでイスラエルの王となり、二年間イスラエルの王であった。

彼は【主】の目に悪であることを行い、彼の**父の道と彼の母の道**、それに、イスラエルに罪を犯させた、ネバテの子**ヤロブアムの道**に歩んだ。彼はバアルに仕え、それを拝み、**彼の父が行ったのと全く同じよう**に行って、イスラエルの神、【主】の怒りを引き起こした。

■アハブとイゼベルの子アハズヤも、ヤロブアムの道を歩み、北王国は最悪の状況が続いた。



【アハブの病】 II 列王記1:1

アハブの死後、モアブ*がイスラエルに背いた。

アハズヤは、サマリアにあった彼の屋上の部屋の欄干から落ちて重体に陥った。彼は使者たちを遣わし、「行って、エクロン*の神、バアル・ゼブブ*に、私のこの病が治るかどうか伺いを立てよ」と命じた。

*ペリシテの北端の町

*バアル神のバリエーションの一つ。

➡ベルゼブル(蠅の王)呼ばわりされたイエス。

バアル神信仰は、形を変えつつ残っていたか？

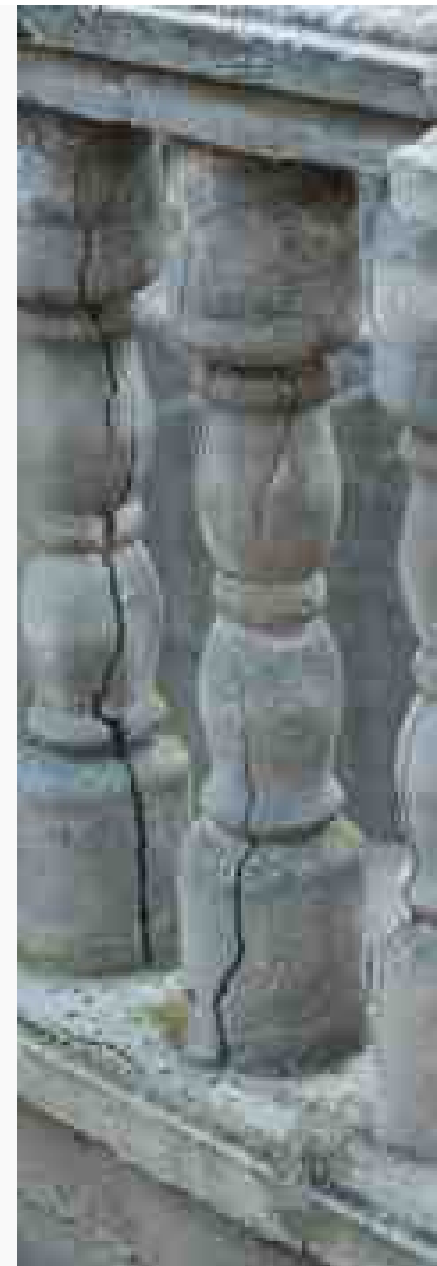


【エリヤへの主の御告げ】 Ⅱ 列王記1:3~4

そのころ、【主】の使い*がティシュベ人エリヤに告げた。「さあ、上って行って、サマリアの王の使者たちに関し、彼らにこう言え。『あなたがたがエクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てに行くのは、イスラエルに神がないためか。それゆえ、【主】はこう言われる。あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」そこでエリヤは出て行った。

*第二位格の神。受肉前のメシア。

➡父祖たち同様、主と親しく交わっていたエリヤ



【引き返してきた使者たち】 Ⅱ列王記1:5～6

使者たちがアハズヤのもとに戻って来たので、彼は「なぜおまえたちは帰って来たのか」と彼らに尋ねた。

彼らは答えた。「ある人が私たちに会いに上って来て言いました。『自分たちを遣わした王のところに帰って、彼にこう告げなさい。【主】はこう言われる。あなたが人を遣わして、エクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てるのは、イスラエルに神がないためか。それゆえ、あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」

*エリヤからの言葉を忠実に告げた使者たち。



【アハズヤの問い】 II 列王記1:7～8

アハズヤは彼らに尋ねた。「おまえたちに会いに上って来て、そんなことを告げたのはどんな男か。」

彼らが「毛衣を着て、腰に革の帯を締めた人*でした」と答えると、アハズヤは「それはティシュベ人エリヤだ」と言った。

*洗礼者ヨハネも同じ格好

毛衣 = 荒布。深い悲しみ、悔い改めの象徴。

■ 民の不信仰を嘆き、悔い改めを促し、

救いを主にとりなし祈るのが預言者の氏名。



【天からの火】 II 列王記1:9～10

そこでアハズヤは、五十人隊の長を、その部下五十人とともにエリヤのところに遣わした。隊長がエリヤのところに行って行くと、そのとき、エリヤは山の頂に座っていた。隊長はエリヤに言った。「神の人よ、王のお告げです。下りて来てください。」

エリヤはその五十人隊の長に答えて言った。「私が神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。」すると、天から火が下って来て*、彼とその部下五十人を焼き尽くした。

*裁きの火。神の怒りが下った。



【天からの神の火】 II 列王記1:11～12

王はまた、もう一人の五十人隊の長を、その部下五十人とともにエリヤのところに遣わした。隊長はエリヤに言った。「神の人よ、王がこう言われます。急いで*下りて来ててください。」

エリヤは彼らに答えた。「私が神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。」すると、天から神の火が下って来て、彼とその部下五十人を焼き尽くした。

*「すぐに降りてこい」 さらに高圧的な態度。

➡神の人への命令は、主ご自身への命令でもある。



【隊長の懇願】 II 列王記1:13～14

王はまた、第三の五十人隊の長と、その部下五十人を遣わした。この三人目の五十人隊の長は上って行き、エリヤの前にひざまずき、懇願して*言った。「神の人よ、どうか私のいのちと、このあなたのしもべ五十人のいのちをお助けください。

ご承知のように、天から火が下って来て、先の二人の五十人隊の長とそれぞれの部下五十人を、焼き尽くしてしまいました。今、私のいのちをお助けください。」

*主の前に人がなしえるのは、ひれ伏すことだけ。



【死の宣告】 II 列王記1:15～16

【主】の使いがエリヤに「彼と一緒に下って行け。彼を恐れてはならない」と言ったので、エリヤは立って、彼と一緒に王のところに下って行き、

王に言った。「【主】はこう言われる。『あなたが使者たちをエクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てに遣わしたのは、イスラエルにみことばを伺う神がないためか*。それゆえ、あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」

*アハズヤの罪は、主に寄り頼まなかったこと。



【アハズヤの死】 II 列王記1:17~18

王は、エリヤが告げた【主】のことばのとおりに死んだ。そしてヨラム*代わって王となった。それはユダの王ヨシャファテの子ヨラムの第二年のことであつた。アハズヤ*には息子がいなかったからである。

アハズヤが行ったその他の事柄、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

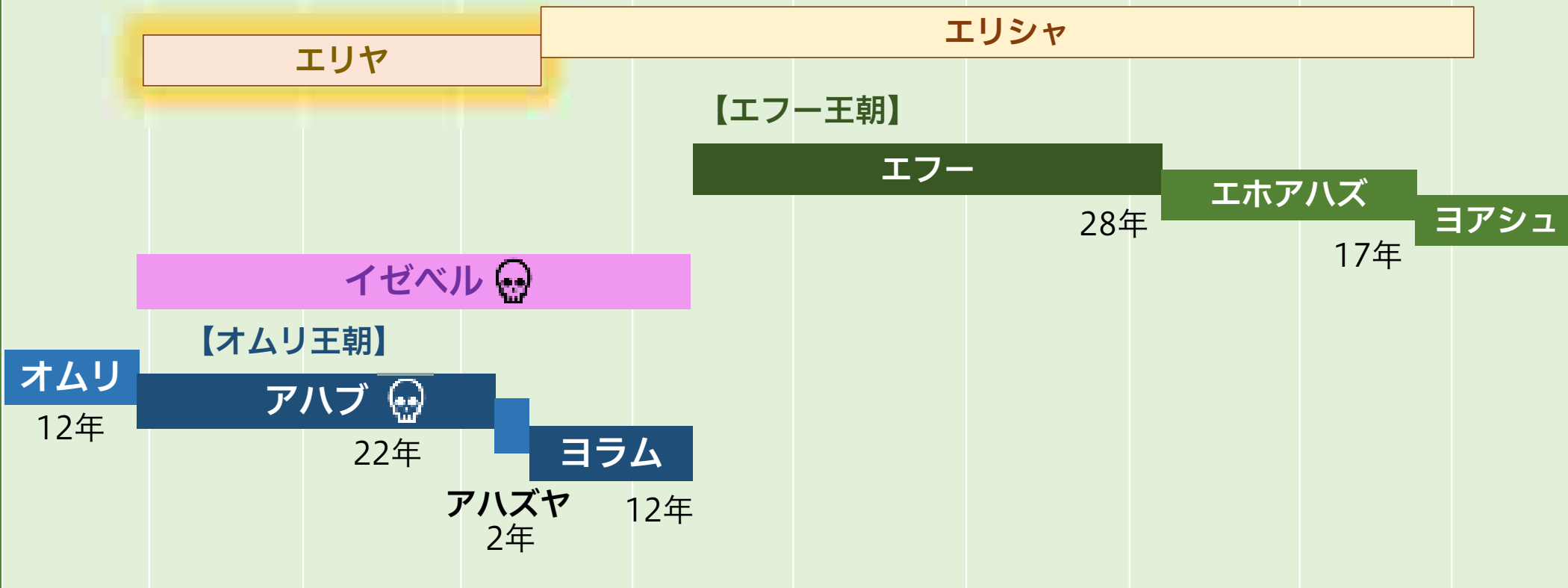
*“主は高貴な方”

*“主が握っている”

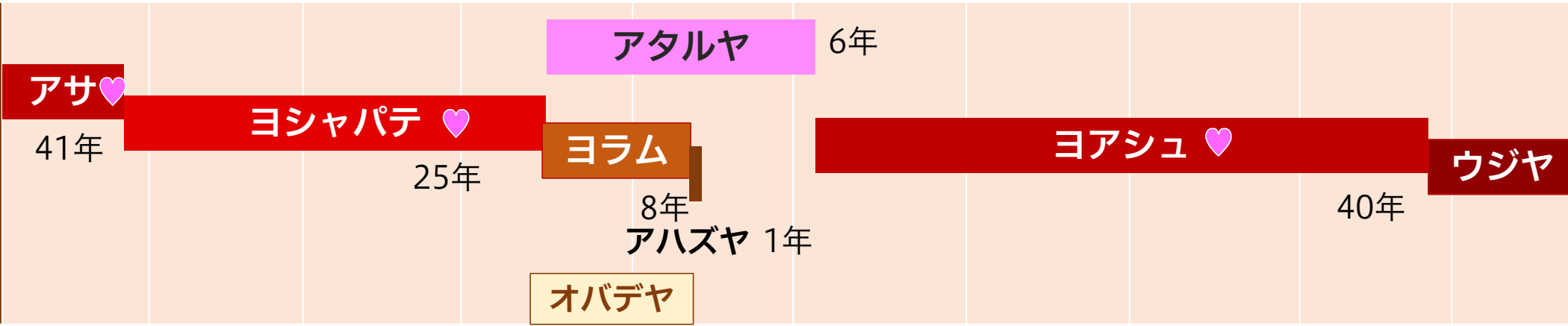
➡わずか2年の治世。アハズヤの不信仰の現われ。
不信仰者アハズヤの命も主に握られていた。



北王国 イスラエル



南王国 ユダ





II. 天に挙げられるエリヤ

列王記第二 2章

ヨルダン川

【ギルガル】 II 列王記2:1

【主】がエリヤを竜巻に乗せて天に上げようとされた*ときのこと、エリヤはエリシャを連れてギルガル*から出て行った。

*火の戦車に乗り、竜巻に上げられた。

*イスラエルの約束の地の最初の宿营地。
ヨルダン川を渡り、主を記念した。

■ エリヤは、南北イスラエルの“残れる者たち(レムナント)”、信仰者を集め、預言者学校を組織していたのだろう。



【ベテルへ】 Ⅱ 列王記2:2~3

エリヤはエリシャに「ここにとどまっていなさい。

【主】が私をベテルに遣わされたから」と言った。

しかしエリシャは言った。「【主】は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らはベテル*に下って行った*。すると、ベテルの預言者の仲間たち*がエリシャのところに出て来て、彼に言った。

「今日、【主】があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。」エリシャは、「私も知っていますが、黙っていてください」と答えた。

*アブラハムの最初の宿营地。ヤコブの祈りの地。

イスラエルの霊的中心は、ギルガルの預言者学校



【エリコへ】 II 列王記2:4~5

エリヤは彼に「エリシャ、ここにとどまっていなさい。【主】が私を**エリコ***に遣わされたから」と言った。しかし彼は言った。「【主】は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らは**エリコ**にやって来た。

すると**エリコ**の預言者の仲間たちがエリシャに近づいて来て、彼に言った。「今日、【主】があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。」エリシャは、「私も知っていますが、黙っててください」と答えた。

*ヨシュアが最初に勝ち取った地。アハブ時代に再建。



【ヨルダンへ】 Ⅱ 列王記2:6～7

エリヤは彼に「ここにとどまっていなさい。【主】が私をヨルダンへ遣わされたから」と言った。しかし彼は言った。「【主】は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、二人は進んで行った。

一方、預言者の仲間たちのうち五十人*は、行って遠く離れて立った。二人がヨルダン川のほとりに立ったとき、エリヤは自分の外套を取り、それを丸めて水を打った。すると、水が両側に分かれたので、二人は乾いた土の上を渡った*。

*ヨシュア時代の再現。出エジプトの再現。



【ヨルダンへ】 II 列王記2:7

一方、預言者の仲間たちのうち五十人*は、行って遠く離れて立った。二人がヨルダン川のほとりに立ったとき、エリヤは自分の外套を取り、それを丸めて水を打った。すると、水が両側に分かれたので、二人は乾いた土の上を渡った*。

*この50人が、エリヤの携挙の証人に。

完全な証人

7年ごとの安息年×7 = 49。50年目はヨベルの年。

負債の完全な免除、贖い、回復の年。

*ヨシュア時代の再現。出エジプトの再現。

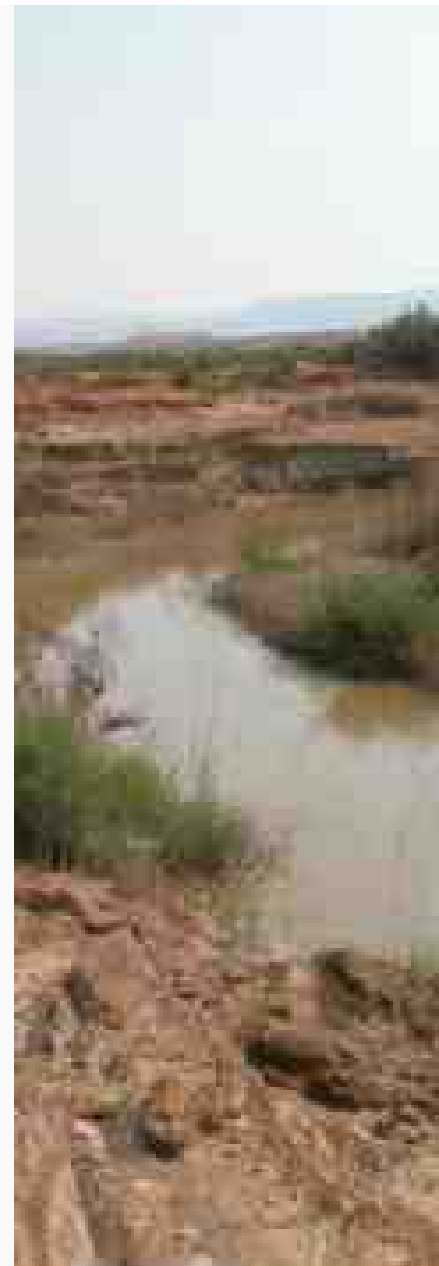


【エリヤが求めたもの】 II 列王記2:9～10

渡り終わると、エリヤはエリシャに言った。「あなたのために何をしようか。私があなたのところから取り去られる前に求めなさい。」するとエリシャは、「では、あなたの霊のうちから、**二倍の分***を私のものにしてください」と言った。

エリヤは言った。「あなたは難しい注文をする。しかし、私があなたのところから取り去られるとき、あなたが私を見ることができれば、そのことはあなたにかなえられるだろう。できないなら、そうはならない。」

***長子の相続は二倍。エリヤの正統な後継者を求めた。**



【エリヤの携挙】 II 列王記2:11～12

こうして、彼らがなお進みながら話していると、なんと、**火の戦車と火の馬***が現れ、この二人の間を分け隔て、エリヤは竜巻に乗って天へ上って行った。

エリシャはこれを見て、「わが父、わが父、イスラエルの戦車と騎兵たち」と叫び続けたが、エリヤはもう見えなかった。彼は自分の衣をつかみ、それを二つに引き裂いた。

*天の軍勢。神の栄光(シャカイナグローリー)

➡エリヤは生きたまま天に挙げられた。



【エリヤの霊】 II 列王記2:13~15

それから、彼はエリヤの身から落ちた外套を拾い上げ、引き返してヨルダン川の岸边に立った。

彼は、エリヤの身から落ちた外套を取って水を打ち、「エリヤの神、【主】はどこにおられるのですか」と言った。エリシャが水を打つと、水が両側に分かれ、彼はそこを渡った*。

エリコの預言者の仲間たちは、遠くから彼を見て、「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている*」と言って、彼を迎えに行き、地にひれ伏して礼をした。

*エリヤに降っていた聖霊が、エリシャに降った。



エリヤの後継者の
確かな証明

【探索の結果】 Ⅱ列王記2:16～18

彼らはエリシャに言った。「しもべたちのところに五十人の力ある者がいます。どうか彼らにあなたのご主人を捜しに行かせてください。【主】の霊がエリヤを運んで、どこかの山か谷に投げたかもしれません。」するとエリシャは、「行かせてはいけません」と言った。

しかし、彼らがしつこく彼に願ったので、ついにエリシャは、「行かせなさい」と言った。そこで、彼らは五十人を送り出した。彼らは三日間捜したが、エリヤを見つけることができなかった。

彼らは、エリコにとどまっていたエリシャのところへ帰って来た。エリシャは彼らに言った。「行かないようにと、あなたがたに言ったではありませんか。」



【エリコの町で】 Ⅱ 列王記2:19～20

さて、この町の人々はエリシャに言った。
「あなた様もご覧のとおり、この町は住むの
には良いのですが、水が悪く、この土地は流
産を引き起こします*。」

するとエリシャは言った。「新しい皿に塩
を盛って、私のところに持って来なさい。」
人々は彼のところにそれを持って来た。

*かつては繁栄したオアシスの町エリコ

➡聖絶以来の神の呪いゆえか？



エリコ近郊

【きよめられた水】 II 列王記2:21～22

エリシャは水の源のところに行って、塩をそこに投げ込んで*言った。「【主】はこう言われる。『わたしはこの水を癒やした*。ここからは、もう、死も流産も起こらない。』」

こうして水は良くなり、今日に至っている。エリシャが言ったことばのとおりである。

*主がエリコの呪いを解き、水を清めた。

➔イスラエルの神は、罪を赦し、癒される。

「わたしはあなたの傷を治し、あなたの打ち傷を癒そう。主のことば。エレミヤ 30:17」

塩の契約?!



【のろい】 II 列王記2:23～24

エリシャはそこからベテルへ上って行った。彼が道を上って行くと、その町から小さい子どもたち*が出て来て彼をからかい、「上って来い、はげ頭。上って来い、はげ頭」と言ったので、

彼は向き直って彼らをにらみつけ、【主】の名によって彼らをのろった。すると、森の中から二頭の雌熊が出て来て、子どもたちのうち四十二人をかき裂いた。

*“ちっぽけな(愚かな)若者たち”

「男の髪の毛が抜け落ちるとき、それははげであって、彼はきよい。レビ13:40」

ベテルの金の子牛の
偶像礼拝者たちだろう



【サマリアへの帰還】 Ⅱ列王記2:25

こうして彼は、そこからカルメル山に行き、そこからさらに、サマリアに帰った。

【エリヤの足取り】

①イスラエルの歩みをたどり、

ヨルダン川 → エリコ → ベテル

②エリヤの歩みをたどる

カルメル山 → サマリア

■イスラエルの預言者としてエリヤを継ぐ

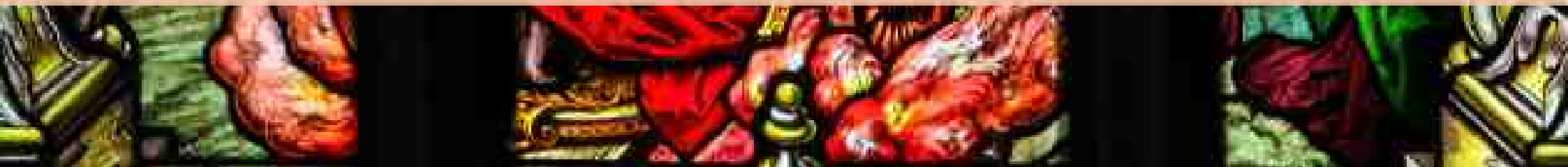
信仰者の働きは時代へ継がれていく





Ⅲ. まとめと適用

クリスチャンの希望・携挙について学ぼう



【エリヤの働きを継いだエリシャ】

- エリヤが最後に辿ったのは、約束の地でのイスラエルの足取り。最悪の時代に、最も困難な使命を成し遂げ、天に挙げられた。
- ヨルダン川を渡るところから、預言者エリシャの歩みは始まった。さらにエリヤの足取りをたどり、エリヤの使命を引き継いだ。
- エリヤに約束された使命は、エリシャによって果たされていく。

【携挙されたエリヤとエノク】

- エリヤの他にもう一人、生きたまま天に挙げられたのがエノク。
- ★ 創世記5:23～24 エノクの全生涯は三百六十五年であった。エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。
 - ➡ アダムの子孫。「死んだ」と明記される人々の中で唯一の例外。
- ★ ヘブル書11:5 信仰によって、エノクは死を見ることがないように移されました。神が彼を移されたので、いなくなりました。彼が神に喜ばれていたことは、移される前から証しされていたのです。

生きたまま天に挙げられた実例が二人、聖書に明記されている

【エリヤは再びやってくる】

★マラキ書 4:5 見よ。わたしは、【主】の大いなる恐るべき日*が来る前に、預言者**エリヤ**をあなたがたに遣わす。

(*世の終わりの裁きの時。大患難時代。)

➡エリヤは、メシアの先駆けとしてやってくる。

★マタイ福音書 11:14 あなたがたに受け入れる思いがあるなら、この人こそ来たるべき**エリヤ**なのです。

➡イスラエルが、メシアであるイエスを受け入れていれば、洗礼者ヨハネが、先駆け者としてエリヤの働きを担っていた。

エリヤは、再臨のメシアの先駆けとしてやってくる!!

【大患難時代にやってくるエリヤ・二人の証人】

★黙示録 11:3 わたしがそれを許すので、わたしの**二人の証人**は、粗布をまとって千二百六十日間、預言する。

■ 7年間の大患難時代の前半・3年半。**二人の証人**が、エルサレムで恐ろしい奇跡をもって神の業を証しし、人々に悔い改めを迫る。

→**二人の証人の正体は不明。ひょっとして、エリヤ？ エノク？**

■二人の証人は、反キリストに殺されるが、全世界の衆目の中、三日半の後、復活して天に上る。 →大患難時代は、後半に突入。

二人の証人(エリヤ)が、再臨のメシアの先駆けとなる!!

【携拳とは？】

■ **携拳**は、世の終わりの神の怒りの裁き・**大患難時代**からの守り。

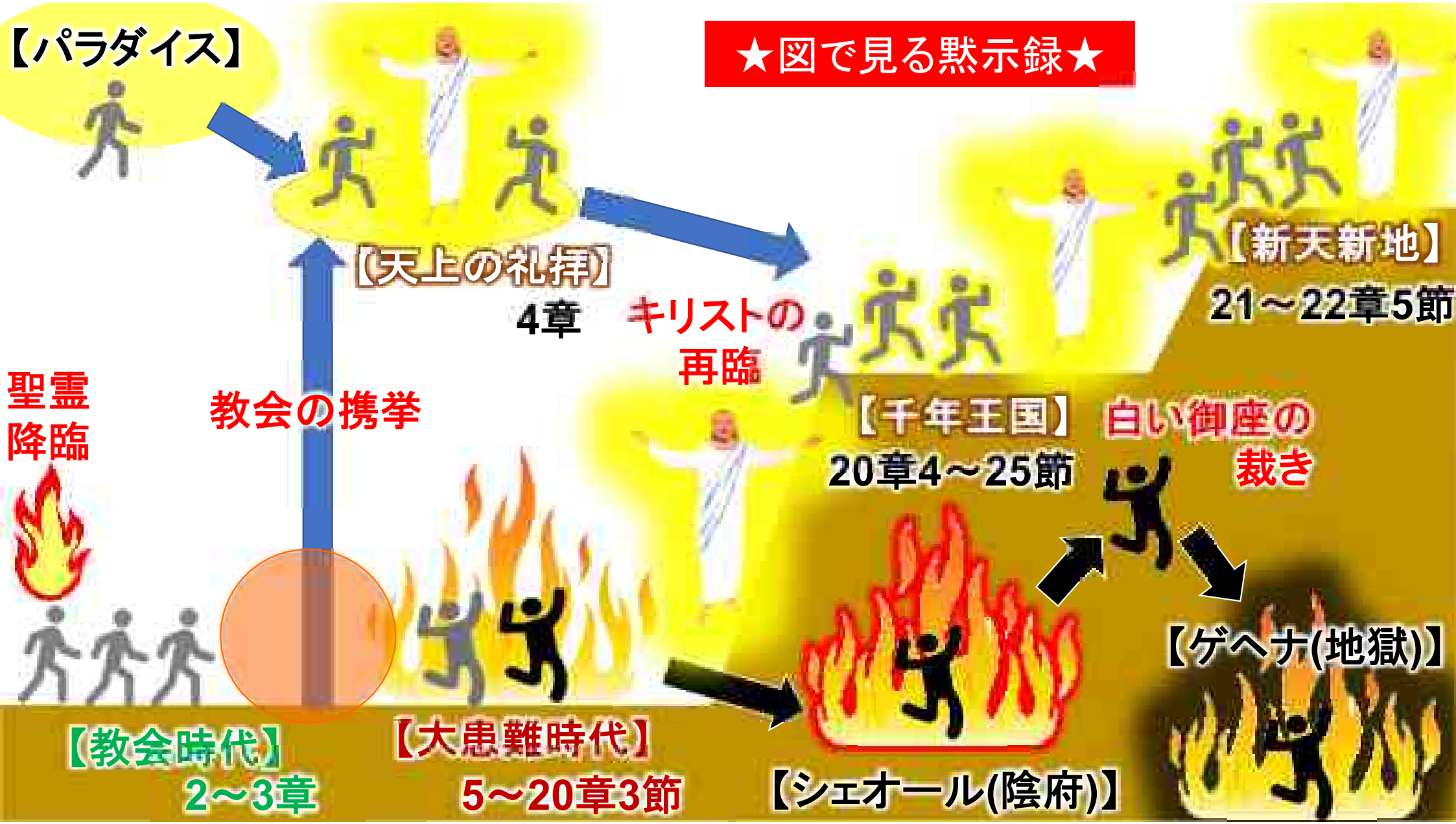
Ⅰ テサ 5:9 神は、私たちが**御怒り**を受けるようにではなく、主イエス・キリストによる**救いを得る**ように定めてくださったからです。

黙 3:10 あなたは忍耐についてのわたしのことばを守ったので、地上に住む者たちを試みるために全世界に来ようとしている**試練の時**には、わたしも**あなたを守る**。

■ **大患難時代**が、世界の大リフォームとするなら、

携拳は、リフォーム終了までの一時的な引っ越し

★図で見る黙示録★



【イエスの約束】 ヨハネ14:1～3

「あなたがたは心を騒がしてはなりません。
神を信じ、またわたしを信じなさい。

わたしの父の家には、住まいがたくさん
あります。もしなかったら、あなたがたに
言っておいたでしょう。あなたがたのために、
わたしは場所を備えに行くのです。

わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、
また来て、あなたがたをわたしのもとの
迎えます。わたしのいる所に、あなたが
たをもおらせるためです。」

➡イエスは、一度、信者を迎えに戻ってくる。
イエスが裁き主として来る「再臨」とは別!!



【携挙とは？】 | コリ 15:50~52

15:50 兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。

朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。

15:51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義*を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。

15:52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

*旧約時代には隠されていたこと

■ある時、突然、天に挙げられ、復活の体に!!



【パウロの補足説明】 | テサ 4:16~17

「4:16 主は、**②**号令と、**③**御使いのかしらの声と、**④**神のラッパの響きのうちに、**①**ご自身天から下って来られます。それから**⑤**キリストにある死者が、まず初めによみがえり、4:17 次に、**⑥**生き残っている私たちが、**たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会う**のです。このようにして、私たちは、**⑦**いつまでも主とともにいることになります。」

■ 迫害で中断されたテサロニケでの伝道を補完するために、携拳について補足説明をしたパウロ。



エリヤのように!!

【携挙の7つのステップ】 | テサ 4:16~17

- ①空中再臨 …主イエスご自身が、天から下って来る
- ②号令 …総司令官である主の命令が告げられる。
- ③御使いのかしらの声 …天使長ミカエルの復唱
- ④神のラッパの響きのうちに …招集ラッパがなる。
- ⑤“キリストにある死者”が、まず初めによみがえり、
…すでに召されている“教会時代の信者”が先に。
- ⑥生き残っている私たち*が、雲の中に一挙に引き上げられ*、
*その時、地上で生きている真の信者
*「ハルパゾー(引き上げる)、rapture」、携挙の語源。
- ⑦空中で主と会う。いつまでも主とともにいる。
…携挙された信者は、天上の礼拝に加わっていく。



【栄光の体】 | コリ15:42～49

15:42 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、**朽ちないもの***によみがえらされ、

15:43 卑しいもので蒔かれ、**栄光あるもの***によみがえらされ、弱いもので蒔かれ、**強いもの***によみがえらされ、

15:44 血肉のからだで蒔かれ、**御霊に属するからだ***によみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、**御霊のからだ***もあるのです。

15:49 私たちは土で造られた者のかたちを持っていたように、**天上のかたち***をも持つのです。

→携挙の瞬間、**天の物質の体(復活の体)***を与えられる。



【預言者の心構えをもって福音宣教に遣わされよう】

- ザビエルの来日は650年前。プロテスタントの宣教は150年。
イエスの十字架の死と復活の知識は、一般教養として根付いている。
➔日本は、未宣教の地ではなく、**福音を拒んだ地**。
“知っていながら拒んでいる” その点はイスラエルと共通。
- 種はさんざん蒔かれてきた。華々しい成果など期待すべくもない。
日本の福音宣教者に求められるのは、**預言者の心構え**だろう。
- エリヤは預言者学校を組織し、残れる者に律法を教えていった。
何より、求める人と地道に聖書を学んでいくこと、それしかない!!

エリヤのように、共に聖書を学び分かち合う共同体を育もう

【現実を見据えつつ、携拳の希望をもって今を歩もう】

- アダム以来、人は劣化の一途。偉大な奇跡を体験したイスラエルも罪と背きを重ねてきた。教会の真理からの逸脱は、主の警告通り。
- 人間の力で世界を変えられるなど、それぞれ現実逃避の最たるもの。世の終わりが近づくほどに、世界の状況はますます悪化する。
- 携拳の希望は、なすべき使命に私たちの意識のすべてを向けさせる。福音を告げ、命の御言葉を解き明かしていくなら自ずと満たされる。

主の約束を喜び伝える主の証し人として、共に遣わされていこう

マラキ書4:4～6

あなたがたは、わたしのしもべモーセの律法を覚えよ。

それは、ホレブでイスラエル全体のために、わたしが彼に命じた掟と定めである。

見よ。わたしは、【主】の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。

彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として打ち滅ぼすことのないようにするためである。」

マラキ書4:4~6を今の私たちに適用するなら？

- 覚えるべきは、**キリストの律法**。旧新約聖書の全体。
- 大患難時代、メシヤ再臨の前に遣わされるエリヤが、イスラエルを悔い改めに導く。
- 私たちが第一に手にすべきは、救いの確信、**携拳**の希望。
最悪の裁きに陥ることはない。使命のための必要は満たされる。
- 何が起ころうとも、起こるまいとも安心して、**福音宣教**の使命に力を注ごう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

このおわりの時代(じだい)に、ただよろこんで、ともに聖書を学ぶ人々とのつながりを あたえてくださって、ありがとうございます。エリヤは来て、イスラエルを悔(く)い改(あらた)めに みちびきます。さばきの日の前に、主イエスよ、あなたは、わたしを みもとに 挙(あ)げてくださいますから、平安(へいあん)のうちに、あなたの証人(しょうにん)として、つかわしてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」